
北杜市鳥獣害対策説明会資料

(イノシシ、シカ、ニホンザル編)

産業観光部 林政課

次 第

- ・ イノシシ、ニホンジカの生態
 - ・ 柵を使用した被害対策
 - ・ 獣害に強い地域づくりに向けての取組み
 - ・ 有害鳥獣捕獲許可について
 - ・ 最後に。
-

イノシシとはどのような動物か？

- ・体重 60～80kg程度 頭胴長 150cm程度
 - ・昼行性(ヒトがいる環境では夜行動する)
 - ・出産期:4～7月 産子数:3～5頭
 - ・視力:ヒトと同程度(夜間視力含む)
 - ・臭力:犬と同程度
 - ・跳躍力:120cm 持ち上げ:70kg
 - ・なわばりはもたない
-

イノシシの食べ物、行動

- 群れで加害することが多い
- 水稲、野菜、果樹のいずれも加害
他、大規模な掘り起こしをする
- きわめて警戒心が強く臆病な反面、安全な場所だと判断すると大胆な行動になる。
- メスを中心に、子供を引き連れて行動する。オスは普段単独行動し、交尾期だけ群れに入り込みます。
- 寿命は自然状態ではおおよそオス6歳、メス10歳程度です

イノシシの生活スタイル

- 草むらなど身を隠せる場所を好む
 - 草や枝でドーム状の巣を作る
 - 昼はあまり行動せず、夜になると活発に動く
 - 行動範囲はそれほど広くないことが多い（1キロ四方程度）
 - しばらく同じ場所で生活した後は、すこし離れた場所に移動し、そこでまた定住する
-



イノシシはこの耕作放棄地で昼寝している

(写真: 県総合農業技術センター)



拡大図
重機の右あたりで昼寝

(写真:県総合農業技術センター)

シカとはどのような動物か？

- ・体重 50～130kg程度 頭胴長 最大190cm
 - ・基本的は夜行性だが昼も行動する。
 - ・出産期:5～7月 産子数:1頭
 - ・跳躍力:約2m
 - ・オスとメスは別々に群れを作るが、繁殖期はオス数頭がメスを囲い込んで群れを作る。
 - ・4つの胃をもち2～3時間採食して、2～4時間休むリズムを繰り返している。
-

シカの食べ物、行動

- 草食で、やわらかい草、木の新芽、木の実を食べる。
 - 水田には田植え後2週間の生育中の稲芽を食べる。
 - 気象変動に弱く、大雪により大量死することもある。
 - 平均寿命7～8年、生後1年以内に半数が死亡するが近年は死亡率が低下している。
 - 飛ぶよりくぐるが先
-

被害対策の基本

< 隔離 >

- ・柵による物理的な隔離

< 地域の環境整備 >

- ・獣害に強い地域づくりを一丸となつて

< 駆除 >

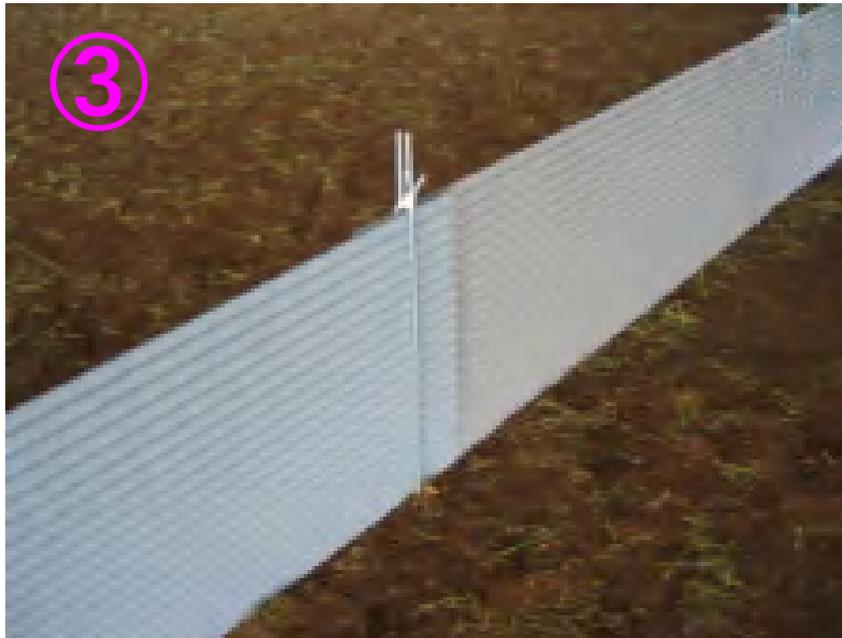
- ・加害獣種の有害捕獲
-

隔離の具体的方法 簡易型

- 簡易電気柵
- ワイヤーマッシュ(金属ネット)柵
- トタン柵
- あみ(漁網など)

物理的に侵入を防止することで被害を発生させない。県内では上記3技術が一般的

(写真: 県総合農業技術センター)



簡易電気柵

毎日のチェックが重要

ワイヤーメッシュ柵

設置部分が弱点となるためしっかりとした固定が必要。また視覚遮断できないのが弱点

トタン柵

ある程度(1.5以上)の高さが必要

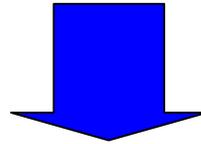
どの対策にも一長一短がある。

集落全体で獣害対策の共通意識をもつ

勉強会、話し合い



- ・野生生物の生態、行動など勉強
- ・対策取組みについて
- ・餌づけしている場所、隠れ場所の把握



一丸となった集落の環境改善実施

- ・不必要農作物早期収穫、放棄農作物の処分
 - ・餌の源となる野菜、穂等の放置期間の短縮
 - ・耕作放棄地の解消
 - ・里山の整備
- 等

未収穫農作物の放置



餌づけ



(写真 やえんぼう倶楽部)

集落の野生動物の餌場



いらなくなった作物の放棄場所



未収穫の柿

(写真 やえんぼう倶楽部)



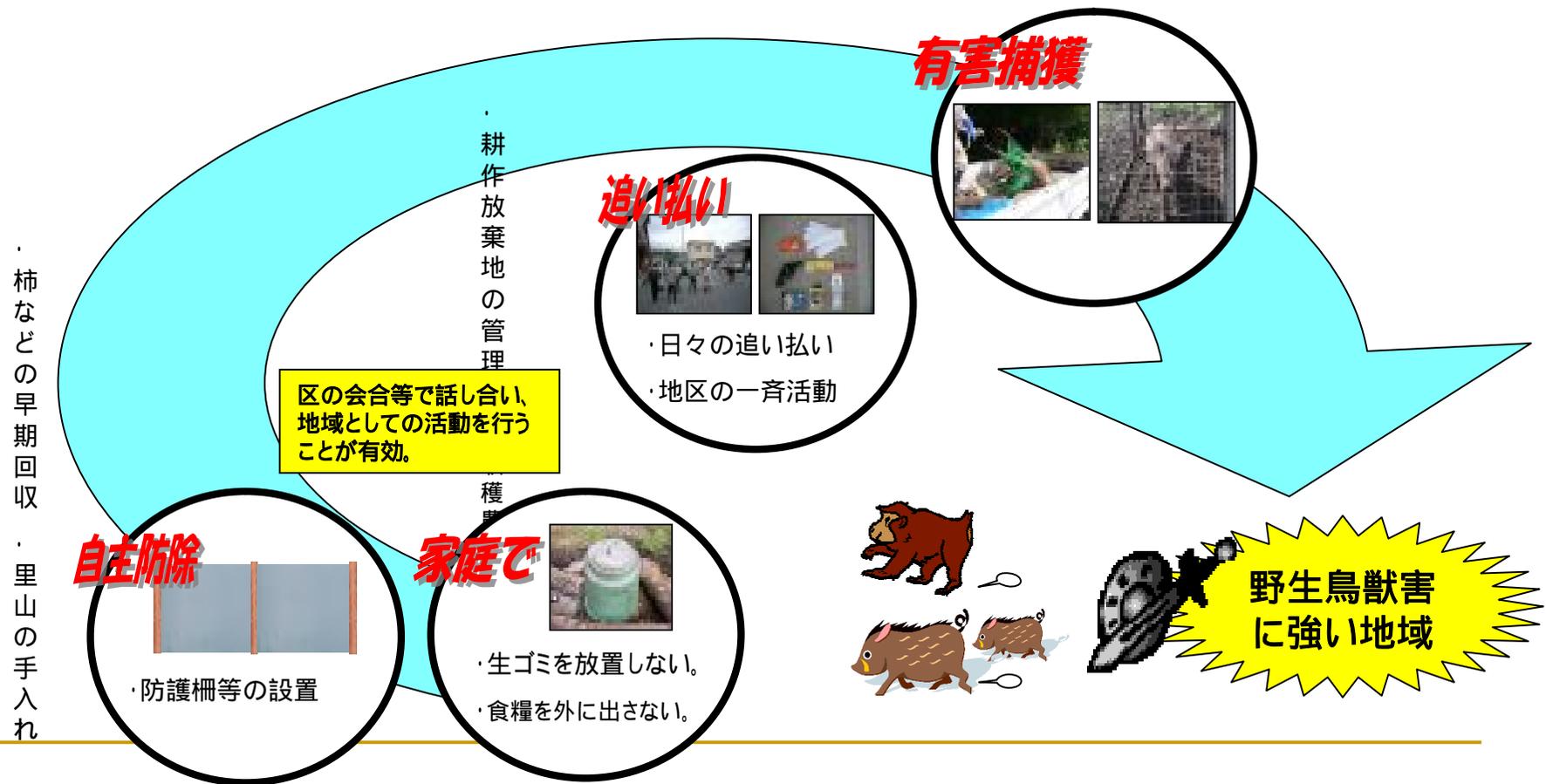
落穂拾いをするサル群

野生動物にとっては良い餌場・・・

地域ぐるみの取組みが大切

「地域の取組み」と「有害捕獲」は、「車の両輪」

「動物を寄せつけない集落」を創り出すことが最も重要。



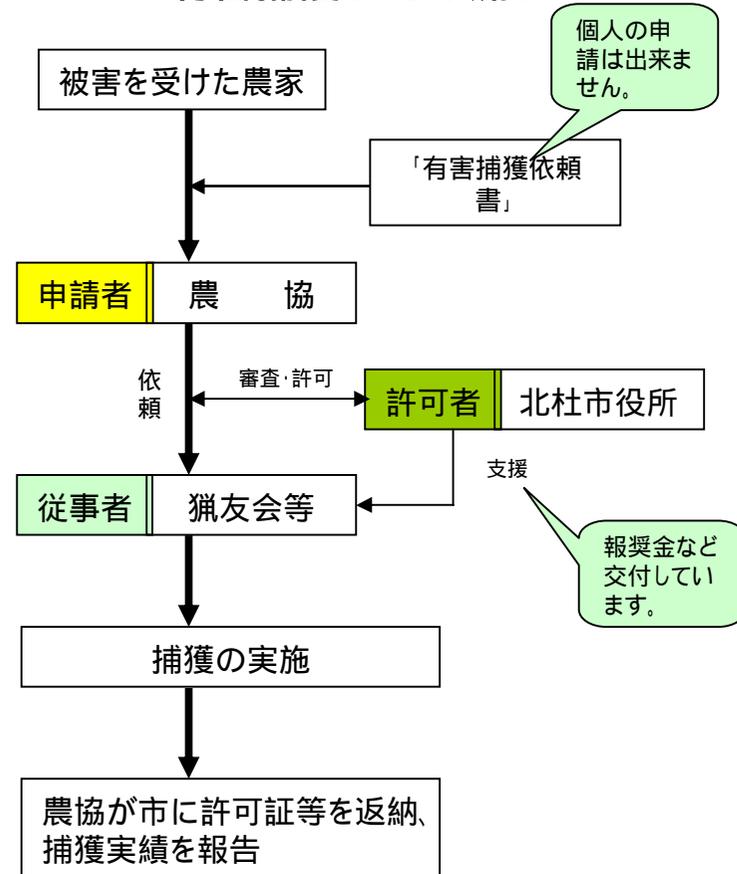
有害鳥獣の捕獲許可について

捕獲行為は、決められた猟区・猟期以外には**原則不可**。(鳥獣保護法による)

自主防除を行っても、農作物被害が発生する場合、**例外的に捕獲が許可**される。

有害捕獲許可の概要	
捕獲の条件	被害対策を実施しても、被害が防止できないこと。
申請者	農協、森林組合（個人は「捕獲依頼書」を提出して申請者に依頼）
従事者	申請者が、狩猟免許を有する者を「従事者」に選任。
捕獲期間	約1ヶ月
捕獲区域	被害発生状況に応じ、被害地及び隣接地を対象とする。

< 有害捕獲までの流れ >



シカ等については、県の許可

武川町内においては、ほぼ通年して有害捕獲申請が農協からあり峡北猟友会 武川分会のみなさまが有害捕獲に従事しています。

平成18年度実績は武川町三吹地区(中山)で、イノシシ14頭、シカ1頭です。

最後に・・・

- 根気よく時間と労力をかけることによって初めて効果が得られる。
- 立派な柵を作っても必ず侵入してしまう可能性がある。これを追い払うか払わないかが効果を左右する大きな要因になる。
- どのような技術があっても、被害対策の意欲を失った集落には、対策軽減は少ない。
「あきらめない」ことが重要。